

## 会議録

会議の名称	第3回加東市東条地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成27年12月8日(火) 19時00分から20時14分まで
開催場所	東条中学校 2階 図書室
<p>議長の氏名 (委員長 石田和伸)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><b>【出席委員】</b> 7人</p> <p>石田和伸委員 近藤光浩委員 藤原尚弘委員 前田一委員 眞海秀成委員 山本健造委員 上月浩忠委員</p> <p><b>【欠席委員】</b> 6人 (うち代理出席1人)</p> <p>岸本耕一委員 小林和也委員 水野英樹委員 岸本強 (代理出席: 岸本美智代) 委員 辻田昇司委員 藤原正幸委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p><b>【教育委員】</b> 藤本洋二教育委員長職務代行者</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千稔 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>(1) 先進校視察結果について (2) 課題の整理と対応方法について (3) 今後の協議の予定について</p>	
<p><b>【会議結果】</b></p> <p>(1) 資料①に基づき、審議しました。 (2) 資料②から④に基づき、審議しました。 (3) 今後の協議の予定について、審議しました。</p>	

## 【会議の経過】

### 1 開会

### 2 協議

#### (1) 先進校視察結果について

〔事務局説明〕

(委員長)

今、事務局からありましたように、一言ずつでも結構ですので、視察の感想をお願いしたいと思います。

まず、私から言います。私は、東山開晴館のほうに行きましたが、前に行ったところは併設ということだったので、初めてあのような形の一貫校を見ました。まず、入ったところの玄関に1年生から9年生までが一緒に入ってきて登校してくるということが魅力でした。やはり一貫校の一番の魅力というのは、もうそこだと思います。普段の生活からお兄ちゃん、お姉ちゃんを見て、また下の子を見るというような形で、児童・生徒全員が目配りをしているというすばらしい環境、廊下でもすれ違うことができるとか、いろいろなことで日常生活全てが対面的に接することができるという魅力というのは、ちょっと感動しました。

ですから、私としましては不安もあったのですが、うまくいけば、こういう中で運営できるということで、やはりこれからの先進教育といいますと小中一貫というふうな形で、9年間の中で上下関係の育み、思いやり、それから先輩に対する尊敬など、そういうものが情操教育として、自然に身についてくるのではないかという感想を持ちました。

ほか、誰でも結構ですので、感想を一言ずつ述べていただければありがたいと思います。

(委員)

視察から帰ってきたときも言いましたが、今日の資料の一番下にも書いてあったように、今回の小中一貫教育の取組みを課題解決の絶好の機会と捉えたいということを感じています。これは学校の様子を見て感じたことですが、やはりこういうことなのかというのは実感できたということで、私はそのような感想を持ちました。

(委員)

やはり縦のつながりがすごく良いなという印象を持ちました。今、ちょうど西小学校でも縦割り班活動を取り組んでやっているのですが、そういうものは継続していくべきではないかという感想を持ちました。

(委員)

すばらしい建物、施設ですが、相当気持ちを入れて維持、運営、管理をやっていないと、子どもたちのためにやったことが将来足かせになったり、障害になるのは一番怖い。

それともう一点、情操教育の部分ですが、トイレのスリッパが脱ぎ散らかしたままでした。今の東条地域の学校では、あり得ないことです。そういう部分が、大規模になっていったら大雑把になってくるのかということはずごく危惧しています。

(委員)

凌風学園のほうへ参加させてもらったのですが、教職員の立場から話をすると、いろいろな設備面の話し合いにより、校舎が建つ前から教師の意見を取り入れてもらって、それを反映した形の設備、校舎の設計をすごく先進的な形でされていると思いました。実際、凌風学園は休みの日になると、生徒が使っている場所はシャッ

トアウトして、校舎の中でも地域に開放する場所をつくられていました。だから、生徒が来ている間も比較的、地域の人が訪れて、学校と交流ができ、地域一体で学校運営をされているという部分で、やはり日ごろから協力体制ができているなどというふうに思いました。

(委員)

東山開晴館に行かせてもらったのですが、小中一貫でするのには、ちょっと小さい設備だという印象は受けました。それから、校長先生が「小中一貫にすることについてのデメリットはありません。」とはっきり言われていたのがとても印象に残っています。あとは、地域の方のやる気です。校長先生と地域の方がいらっしゃったのですが、すごくやる気があって、ちょっとそこは私には欠けている部分なのかという印象が残りました。

(委員長)

良い面、また、これからまだまだ検討していかなければいけない、気をつけていかなければいけないということもあるといったことが出ておりました。それにつきまして、視察に行って本当によかったという意見がある中、小中一貫校開校に向けて検討しなければいけないことも多くありますので、2番の課題の整理と対応方法について、事務局、お願いいたします。

## (2) 課題の整理と対応方法について

[事務局説明]

(委員長)

教育委員会でこのような資料をつくっていただいております、これにつきまして皆様の意見を聞きたいのですが、このようなものも要るのではないかと、そのようなものがございましたら、先ほどの意見同様、どなたでも結構ですので、述べていただけたらありがたいと思います。

最初、皆様方に意見を述べていただきまして、どちらかと言いますと一貫校をつくっていかうというように傾いているというように思いました。そうしたら、この一貫校を、先ほど言われましたように、兵庫県一とか、日本一とか、どこからも見学に来たいというような学校にするためには、5年間しかないですが、こういう組織をつくって、本当に一生懸命考えてスムーズにやっていかないとはいけません。私は、5年もあるではなく、もう5年しかないと思います。そんな中で、平成33年に開校する地域がどこになるかは知りませんが、33年に開校しようと思ったら、今から本当に真剣に考えないと。今、専門委員会、それから部会について、説明を受けましたが、この中でもっとこういうふうな会も要るのではないかと、ということがございましたら、御意見を頂戴したいと思います。

資料を見ていると、いろいろな検討課題が出ています。それをどうやって克服していくかという対応のことですが、ございませんか。

(委員)

学校運営委員会の構成委員ですが、今、出ている分では細かくはわかりませんね。ここに載っているのは、たぶん、私達ぐらいですよ。就学前児童保護者代表、小学校、中学校保護者代表といったら、会長ですよ。それで、地域代表といったらたぶん区長さんですよ。もうちょっとメンバーに入らないのですか。

何か、ちょっと代わり映えがしない。もう少し、幅広く募集したほうが良いのではないかと思います。今回のこのメンバーでも、あまりにも少ないという気がするのですが。

(事務局)

校名部会から開校記念式典部会まで、部会がありますが、当然、このメンバーでできるわけがございません。

例えば、校名を決める場合は各地域の方に入ってもらったり、校歌を決める場合は、例えば音楽をしている人や作詞、作曲ができる人がいらっしやいますよね。公募か、地域から決めていただくかということで裾野を広げて、部会にたくさんのいろいろな人に関わっていただきます。学校が開校すれば、その人たちが学校の応援団になるわけです。私たちがつくった学校、自分たちで校歌を考えたと。だから、それが新しい学校を支えていただく、新たな地域の人たちというふうな考え方でございます。それで、準備委員会のメンバーが、それぞれの代表で、これぐらいになるというイメージです。

(委員)

この行程表の中で説明会が平成29年度と31年度の2回になっていますが、もうちょっと頻繁にしたほうが良いのではないですか。年に最低でも1回、もしくは年に何回かできればと思うのですが。

(事務局)

この準備委員会は、多くの方々に部会でお世話になりますが、それ以外に多くの方々おられるわけで、情報をどう提供していくかは非常に重要なことだと思います。それが説明会になるのか、例えば皆に集まってくださいと言っても、なかなか集まることは難しいですので、情報誌的なものを例えば準備委員会でつくって、今こんなことを協議していますというようなことで細かく啓発していくというか、情報を提供していくことが、これからますます重要になってくると思います。説明会も含めてですが、33年開校に向けて5年前からやるとすれば、今こういうことをやっていて、次にこういうことを考えてやろうとしていますというようなことについては、できる限り多く地域の方々に、オープンにして、可視化していかないといけないと思っています。ただ、それが集まって説明会をするというやり方がベストなのか、あるいは、こちらから情報を届けるということがベストなのか、また、準備委員会等でいろいろな形で役職の方にお集まりいただいていますので、今、このようなことを話しているというようなことを広げていただくことも非常に大事なことというふうに思っています。今の視点は本当に大事なことだというふうに認識をしているところです。

(委員長)

やはり裾野を広げて、その人たちの力を借りないと成功しませんので、今、言われましたように、それは大事なことです。それをどのようにするかということは、今言われましたが、検討課題ということで紙に書いて公表するとか、テレビでもやるとか、そのような形で皆さんに周知していただくことが大事ですね。

(委員)

ふるさと学習「かとう学」ですが、この辺の地域のことをいろいろ勉強しようということですね。私は、この辺の人でなく、構成員に入っても私が教えてほしいという感じになるのですが、一緒に勉強しながらという形になるのですか。

(事務局)

地域の人たちは、例えば東条でしたら釣り針であったり、こいのぼりであったり、山田錦であったりとか、それぞれ思いがありますよね。だから、その編集を手伝うとか、その人にインタビューをしているとかというようなイメージになり、その人たちの御意見なり、話し合いを通じて、カリキュラムをつくっていくという作業です。地域のそういった方に入ってくださいことで、先ほど言いました周知になるし、将来の学校の応援団になるということです。だから、ご希望の部会へ入ってください。

(委員長)

いかがでしょうか。こんな部会があったら良いなというものはないですか。

(委員)

まず、今日の会の前に、どのように会が進んでいくのかなと思っていたのですが、何か一気に進んでいったような気がします。このアンケート結果等を見ましたら、これはもう当然のことと思いますね。もう推進の時代は終わって、今やるべきことは、具体的にどう課題に取り組んでいくかというようなことで、次のランクへ進もうとしていると思うんですね。大事なことは、ここで話をしていることが、東条地域の方であるとか、加東市民にどう伝わっていくかということで、このような会が地域で開かれて、こういう内容であったというようなことを知らすために、広報部みたいなものがあつたらどうかと思います。ホームページ等で掲載することはできますが、滅多に見られないと思います。いくらそこにありますと言ったところで、見なければ意味がないですね。こちらから、もう押しつけるような感じで見てもらいたいようなことも必要ではないか。これがもし可能であれば、広報部みたいなものがあれば助かるのではないかと思います。

(事務局)

良いご意見をいただきました。開校記念式典の部会が、例えば広報と兼ねて平成28年度からずっと動けば、地域の人たちがこういった広報の方法もあるとか、逆にその人たちが広報の役をしていただけるかもわかりませんね。地域の人たちが学校の開校に向かって頑張る共同体にならなければいけないので、部会を1つ入れるか、今言いました式典部会に入れたいと思います。

(委員長)

先ほども言われましたように、一応この方向で進むという会になっていますが、それに対して、ちょっと早いというようなことはございせんか。この会では、ゴーということで。

(委員)

ここは先頭を切って走って行って、世間の保護者、住民の方を味方に取り入れるというのは大事なことだと思う。そのために、この会はあるんですね。

(委員長)

やはり、このような会を何のためにやって、こうように進めていっているということを市民の皆さんに知っていただくということは、一番大事なことです。

(事務局)

それは、市の広報紙とか、先ほどホームページも言われましたが、どんどん出していきたくて思っています。

(委員長)

お願いいたします。

ほか、御意見は。

これは、もう進めるというふうな形で、この場では進ませてもらってよろしいでしょうか。

先ほど言いましたが、5年もあるということではなく、5年しかないというふうなことで、こういう部会をつくって、東条が1番に一貫校を進めるということですが。

今のところでは、前にもありましたように、東条、社、滝野というような形を組んでいます。それは嫌だと、一番後回しにするというようなこともあると思うんです。しかし、そうなったときに、初めにやっていたらよかったというようなことで、しまったというようなことがないように、やっぱり慎重にしていかないと。そこは、どうでしょうね。

(委員)

水差すようで悪いのですが、実は東条西と東のPTAで、第1回の推進協議会があまりに重いものだったので、本部で集まって食事しながら会話をしました。その中で、まず問題にあがったのは、学校評議員がこの会にも参加していただけるのか。主導すべき教職員の賛否、意見が聞こえない。あとは、教育委員会の人、市役所の方、市議さん等が私的に個人や団体へ接触したり、自分たちの都合よく語りかけている実情がある。そして、なぜ今のタイミングでと。それと、あとは建てる用地問題、河川の安全性など。先ほどもありましたが、カリキュラムの問題ですね。そんなところがあがりました。だから、まだ、こういう意見があるということを知っていただいた上で。

(委員長)

東条地域としては、どうするかということですね。

(事務局)

教員の賛否の話ですが、今、私どもが進めようとしていることについて教員が理解を示しているのが7割ということです。それと、もう校長会も通じて、教員に対する説明会もしておりますので、私どもの方針というのは理解していると教育委員会では思っております。ただ、個人的には、賛成、反対というのはありますが、やはり教育公務員ですから、それを公に、保護者の前で賛成、反対というのはいかかなものかという考えはあります。ただ、不安に思っている教員はいます。いつも言っていますように、この小中一貫教育、小中一貫校を開校するのは本当に良いことだけど、この忙しさのために普段の教育活動がどうなるのかという不安は当然あります。先行校の教員も皆、そうだったと聞いています。新たなことをやるわけですから。でも、先行校の教員たちの話を聞いたり、校長先生の話の話を聞いたりすれば、やってよかったというふうになります。そのときは大変なんです、当然。だから、賛否の声が聞こえないというのは、教育公務員として賛否を言うべきではないということで御理解いただけたらと思います。ただし、不安を持っているのは間違いないですから、その不安を解消するのは教育委員会なり、管理職の仕事だと思っています。

それと、用地の問題ですが、教育委員会としては、東条文化会館の周辺が適地だということで判断をしています。これは、それ以外の用地、考えられるというのは南山になりますが、南山になった場合、今までの新興住宅地、言い方が悪いんですけども、どこでもそうですが、やはり30年しましたら代が変わってしまいます。皆、今から地域の人たちの支えによって、地域の応援を受けてつくっていく学校ですから、今ある地域のところへ建てたいというのが思いです。そのためには、東条の真ん中に建てるべきだということで考えています。それ以外の、例えば岡本であつたりについては、難しいということをして市の当局から聞いておりますので、私どもとしてはもうここの周辺が一番かと。

それと、もうひとつは、ここまで来て、併設型というのはちょっと考えられない。皆さん、施設一体型を理想として歩んでいっているわけですから、何としてでも施設一体型の形で建てたいという思いはあります。そういった形の設計を今後考えていくということで思っています。

学校評議員の参加のお話ですが、準備委員会が立ち上がって、先ほど言いましたようにいろいろな方に当然入っていただきます。入っていただかなければ、学校評議員だけでも回りませんし、いろいろな方にたくさん入っていただこうと思っています。

あと、市議員さん等が個別にというような話については、教育委員会としては、そうなんですかということではしかお答えはできません。それぐらいでしたでしょうか。

(委員)

そうですね。

(事務局)

カリキュラムはつくっていくものですから、実は、今できているというのがおかしいんです。だから、今後つくっていったって、必要に応じてお示ししていきます。教員は、カリキュラムをつくるのが仕事ですから。

(委員)

私のほうに入ってきているのは、市が東条から始めようとしているような動きが少しあるということで、私たちがこういう会議を今持っているにもかかわらず、もう、市はそういうふうに行っているのですかとすごく疑問に思うことがあります。これは、今から決めていくことではないのですか。もう何か動いておられるような感じのことを聞くので。

(事務局)

この会議での意見を踏まえて、順番は決めましょうということで、今、方針を出しています。子どもの数の話とか、そういった状況を考えると、教育委員会は、東条、社、滝野の順番が望ましいが、地域の皆さんの意見を聞いて最終的に教育委員会なり、市が決定するという方向性しか今は出ておりませんので、ここで先にやってほしいとか、もうちょっと待ってほしいとかという意見があれば、そこは参考にさせていただきたい、そういう意見は尊重したいというふうに思っています。

(委員)

ここでの意見を聞いていただけるとのことですか。

(事務局)

はい、そうです。

(委員長)

一貫校が良いという皆の気持ちは、もうわかっていますが、それではどこからと、これがまずひとつの壁になっています。その意見をもっとどんどん言ってもらったほうが。

どうでしょう。

これから先になりますと、やはり西地区の新入生がどんどん減っていく。

そこらは、やはり難しいですね。

(委員)

今の話で、やはり西地区は少ないのですが、来年、西小学校の新入生は、たぶん1学年5人ぐらいになる。

(委員長)

5人ですか。

(委員)

附属に入学しようかなと考えておられる方が4人ほどおられるということなので、おそらく5人ぐらいになるのではないかという状況です。

(委員)

やはり、少ないから附属に入れようかという話も聞きます。いろいろな友達関係をつくっていったってほしいのですが、5人というのは、やはり親としては、もう少し大きいところでやってほしいということもあります。また、その5人で育ってきた中で中学校に行くときには、今、南山の人が多くなっているので、東の子のすごい団体の中に5人で行かないといけないということになり、それは西地区に住んでいて、とても不安に思っています。たぶん、今から先はあまり増えることもなく、どんどん少なくなっていくと思うので、1学年5人ぐらいのクラスがずっと続いていたり、そのうち1年、2年が一緒になったりとかということも考えら

れるのかなと思います。

(委員長)

複式学級ですね。

(委員)

はい。それは、その良さが、たぶんあると思うんですけど。

(委員長)

急に、来年からつくるということはできませんのでね。でも、そういうふうな状況が続くということになりますと、やはり一貫校の設立をどうするかということがもう本当に大きな課題ですね。

(事務局)

委員長、次回の話がちょっと入ってきているようですので、先に今後の予定のお話を差し上げてよろしいでしょうか。

(委員長)

それでは、皆さん、よろしいですか。どういうふうな形で4回目の会議をやっていくという説明ですね。

### (3) 今後の協議の予定について

〔事務局説明〕

(委員長)

開校順のことですが、第4回目に聞くというようなことを教育委員会が言っていますので、皆さん方の御意見、一月ぐらいしかありませんが、各種グループの意見、グループといいますか、小学校、中学校ですね、そういうふうな意見をまとめていただくということも大変難しいと思うんですけども、5年ということになりますと、もう1月には決めていかないと33年には開校できないということでございます。ゴールが、もう年が見えていますので、そこへ合わせていくためには、遅くとも1月中には一応決定したいということですね。

(事務局)

そうですね。来年度の予算のこともありますので、そういう意味ではできれば1月中にはある程度の結論は出さないと、ちょっと間に合わないというふうには思います。

(委員長)

一応、皆さん方の意見としては一貫校が望ましい。これは、もう皆さん、言われているとおりですね。しかし、いつ、どの順番でやっていくかということは、これはもう最終的な課題ですね。それにつきましては、第4回目、1月の3週目ぐらいに第4回目を開いていきたいということです。

それ以外にこういう意見がある、こういう気持ちもあるというのがございましたら、この機会ですので、何なりとおっしゃっていただいて結構ですが。もし、なければ、この会を終了したいと思います。いかがでしょうか。

〔異議なし〕

## 3 閉会

### 【資料名】

資料① 先進校視察結果について

資料② 課題と対応方法について

資料③ 加東市小中一貫教育準備委員会組織 (案)  
資料④ 小中一貫教育準備委員会等教育施策 行程表 (案)

平成28年2月8日